

京都探究ワーク **歴史** ③



とよみ ひでよし
豊臣秀吉の都市改造について学ぼう。

織田信長の死後、^{はげん}覇権争いを制した豊臣秀吉は、朝廷から関白に任じられ、1590（天正18）年に天下統一を果たす中で、京都の都市改造を行った。平安京の条坊制を残しつつ、さまざまな事業を行った結果、現代まで続く京都の都市基盤が整えられた。



秀吉の都市改造事業に関する下記の文章を読んで、設問に答えよう。

約11年にわたる (ア) で荒れ果てた京都のまちを復活させるため、豊臣秀吉は京都の都市改造に着手しました。

まず、関白になった翌年の1586（天正14）年に、秀吉の邸宅であり政治の中核となる城郭として、「^{じゅらくてい}聚楽第」の建設に着手。諸大名に命じて短期間で造営しました（着工翌年に完成）。この城郭ふう邸宅には、(イ) が多用され、東西約600m、南北約700mの敷地に、本丸や南二の丸・西の丸などを配置し、周囲には堀と石垣を巡らせました。さらにその周辺に武家屋敷を配置し、配下の武士を住ませました。

また秀吉は、^{てんしょう}「天正の地割」とよばれる新しい区画で京都の町割りを整備するとともに、天下統一の翌年には都を外敵から守る防壁として、さらには鴨川の^{はんらん}氾濫から守る堤防として「^{おどい}御土居」を築きました。御土居の内側と外側を区別して「^{らくちゅう}洛中」と「^{らくがい}洛外」と呼ぶようになり、交通と物流については「京の七口」と称される出入口を設けて要所としました。

そのほか、市街地に散在していた寺院を移動させて寺町に集めるなど、秀吉は京都のまちを大々的に改造する事業を行いました。その^{こんせき}痕跡は今も街並みや地名などに見られます。

解説 >>>

〔設問1〕 上の文章の（ア）と（イ）について、それぞれ当てはまる語句を選んで丸を付けよう。

（ア）保元の乱 ^{じょうきゅう}承久の乱 応仁の乱 ^{ほんのうじ}本能寺の変 （イ）刀剣 ^{うるし}漆 ^{うぐいすば}鶯張り 金箔瓦

秀吉は派手好きだったといわれ、他に黄金の茶室も作りました。

〔設問2〕 下線①に関連して、秀吉が京都の都市改造を行う以前と以後の町割り（区画）について、その様子を表した下のA・B・Cの図を、時代の古い順に並べよう。

! Hint 平安京の区画が次第に崩れていき、土地利用が非効率的になった後、秀吉が土地の有効利用を図りました。

